

<3年生代表の、「合唱」と『だいじなものは』に対する思い(抜粋)>

私たちが皆さんと同じ2年生の時、「先輩のような合唱を歌ってみたい」という強い憧れをもっていました。一方で、3年生のあの合唱を引き継ぐことへのプレッシャーがありました。「どうしたら先輩のようになれるのだろう?」と考えると、正直、心が折れてしまいそうでした。(中略)そんな私たちですが音楽祭では「河口」という難曲に挑戦しました。最初は、苦戦していました。そんな時、学年練習の前に8人の仲間が学年の前で、「河口」の合唱を披露してくれました。仲間の本気の合唱を聴いて、胸が熱くなったのを今でも忘れられません。仲間の誰もが合唱に対する強い決意をもった瞬間でした。

なぜ私たちは「合唱」という伝統を継承するのでしょうか。「合唱」は一緒に歌う学年や学級の仲間への思いを、合唱を通して表現しているにすぎないのです。私たち一人一人が、関わり合い、創り上げていくものだからこそ、合唱は、引き継いでいく価値のあるものなのだと思います。

『だいじなものは』の中で私の一番好きな歌詞は、
『だいじなものは 見えるものよりむしろ見えないもの 想像することが新たな始まり』

この歌詞は、私たちが過ごした川島中学校での3年間と重なります。川中音楽祭でみなさんが披露してくれた合唱は、“見えている部分”だと思います。しかし、その合唱ができるまでに、仲間に思いを伝えたり、練習を工夫したりなど、思い悩んだりした時あったかと思います。合唱練習だけでなく仲間と過ごした時間こそが、歌を創り出すのです。つまり、「見えないもの」、「日常」の中に大切な価値があります。この曲の最後には、3年生が「信じる」という言葉を叫ぶように歌う箇所があります。「見えないもののなかにこそ大事なものがある」ということを心から信じて、その歌詞を歌えるのは、3年生だけなのだと思えます。

みなさんは、もうすぐ3年生になりますね。そして、最高学年として後輩と共に、この歌を歌うとき、「信じる」というこの歌詞の意味を感じて、堂々と1・2年生の前で叫んで歌うことができる、そんな3年生になってほしいと願っています。



3年生だけが歌える「信じる」という歌詞。

「見えないもののなかにこそ大事なものがある」という歌詞を、3年生が心から信じて歌っている・・・。

素敵ですね!!

その後、2年生の内田煌希さんの思いを受け、2・3年生で『だいじなものは』の合唱をしました。指揮・伴奏・鍵盤ハーモニカも全て2年生だけで演奏をしました。



「合唱」と、『だいじなものは』に対しての3年生の思いは2年生に伝わったでしょうか。合唱は、一生懸命歌っていないなくても、歌っているふりをしているだけでも、その時間は過ぎていきます。しかし、「本気」で歌うから、聴く人の心を動かし、相手の胸を熱くするのですね。2年生は、合唱で「強い決意」を示し、その思いを3年生に届けることができたのでしょうか。ぜひ、2年生のみなさんも、「見えないもの」、「日常」に大切な価値を見出し、「見えないもののなかにこそ大事なものがある」ということを心から信じて、『伝統継承活動』

に取り組んでいってください。3年生から伝承できるのも、あと11日・・・。